

別紙資料

「家庭学習ファイルの取組」

はじめに

これまで、荒れた時代の生徒に関わる中で、「どの子も勉強が分かりたい」という気持ちが心のどこかにあるということに気づき、この気持ちにより添う取組として「家庭学習ファイル」を粘り強く取り組んできた。学力的に大きな成果は得られなかったが、社会に出て学ぶことの大切さや毎日関わってもらったことへの感謝の気持ちに気づいた卒業生と話す中、この取組がすべての課題の克服につながる手がかりになると確信し実践してきた。

本校の学力実態については、入学時の学力課題により学年毎で大きく異なる。現3年生は、入学時に学力的課題が大きい生徒が多く、全体的に落ち着いてはいるがなかなか授業に集中できないという課題があった。この学年が2年生の時に校長として着任したが、授業規律面の不十分さが、学力向上の大きな壁として立ちはだかり、学力的課題に大きく影響していると考えた。悩んだ結果、この課題を克服するために、自らの経験を活かした「家庭学習ファイルの取組」を学校体制で行うこととした。また、教職員の人材育成を目的としても取り組むこととした。

取組の意義について徹底した結果、学力的にはまだ課題が残るものの、この取組によって明らかに授業規律が改善され、生徒の学習に向かう姿勢は確実に向上した。

(1) 目的

ア 中学2年生で実施された京都府学力診断テストの結果に大きな課題があったため学力向上に向けた具体的な取組として行う。

イ 家庭学習習慣を身につけさせ、小学校での学習の躓きを克服するための取組として実施し、学習に向かう力を育成する。

2年生へ基礎学力テストの実施	
1	テスト教科 数学・英語
2	実施計画 12/4(月) ~ 12/11(月) 授業でテストを実施 12/13(水) 個別家庭学習ファイル生徒の選出 12/14(月) ~ 12/20(水) 3者懇談で保護者に説明 3学期から 個別家庭学習ファイルの取組
3	担当者 2年生の先生を中心に部活動顧問の先生等

↓

・一年後の自分を大切にできるように(多くの進路選択先があるように) ・学年の仲間を大切にできる取組にする(応援できる仲間) ※まずは、第1回学力テスト(6月はじめ)で結果をだす
--

(2) 対象生徒

独自のテストを実施し、小学校での学習に躓きをもつ生徒を抽出

(3) 取組経過

ア 職員会議で教職員へ趣旨説明

- ・2年生の学力的課題克服するため、「家庭学習ファイル」の取組を行うことを説明
- ・取組の日程及び担当者について説明

イ 校長講話を京都府学力診断テスト返却後(11月末)生徒に実施

- ・学年の学力課題の現状分析について説明
- ・取組の意義説明



【校長講話】

ウ 園部中学校「基礎・基本確認テスト」の実施

- テスト範囲
算数・数学：小学3年生からの範囲 英語：中学1年生からの範囲
- 対象生徒
分数や単語などで躓いている生徒
- 担当教師
2学年担当教師や1・3学年の副担任、生徒指導主任、教務主任、教頭が、3人程度の生徒を担当
- プリントの内容
独自のプリント（九九、分数計算問題、アルファベット、簡単な単語等）や京都府総合教育センターが作成しているナビツールなどを活用。



エ 取組方法

- 家庭学習ファイルにある課題を家庭で取り組み、担当教員に朝提出→放課後に採点が済んだプリントと新たな課題を受け取り、家庭で学習→・・・（繰り返し）

成果と課題

担当教員と学習の苦手な生徒が取り組む姿勢は、まわりの学年の生徒に学習することの大切さを伝えることとなった。その結果、授業に前向きに取り組む生徒が増え、学習規律が良くなった。取組については道半ばではあるが、生徒の学びに向かう姿勢や学習意欲は格段に向上した。